

はくつ 2005

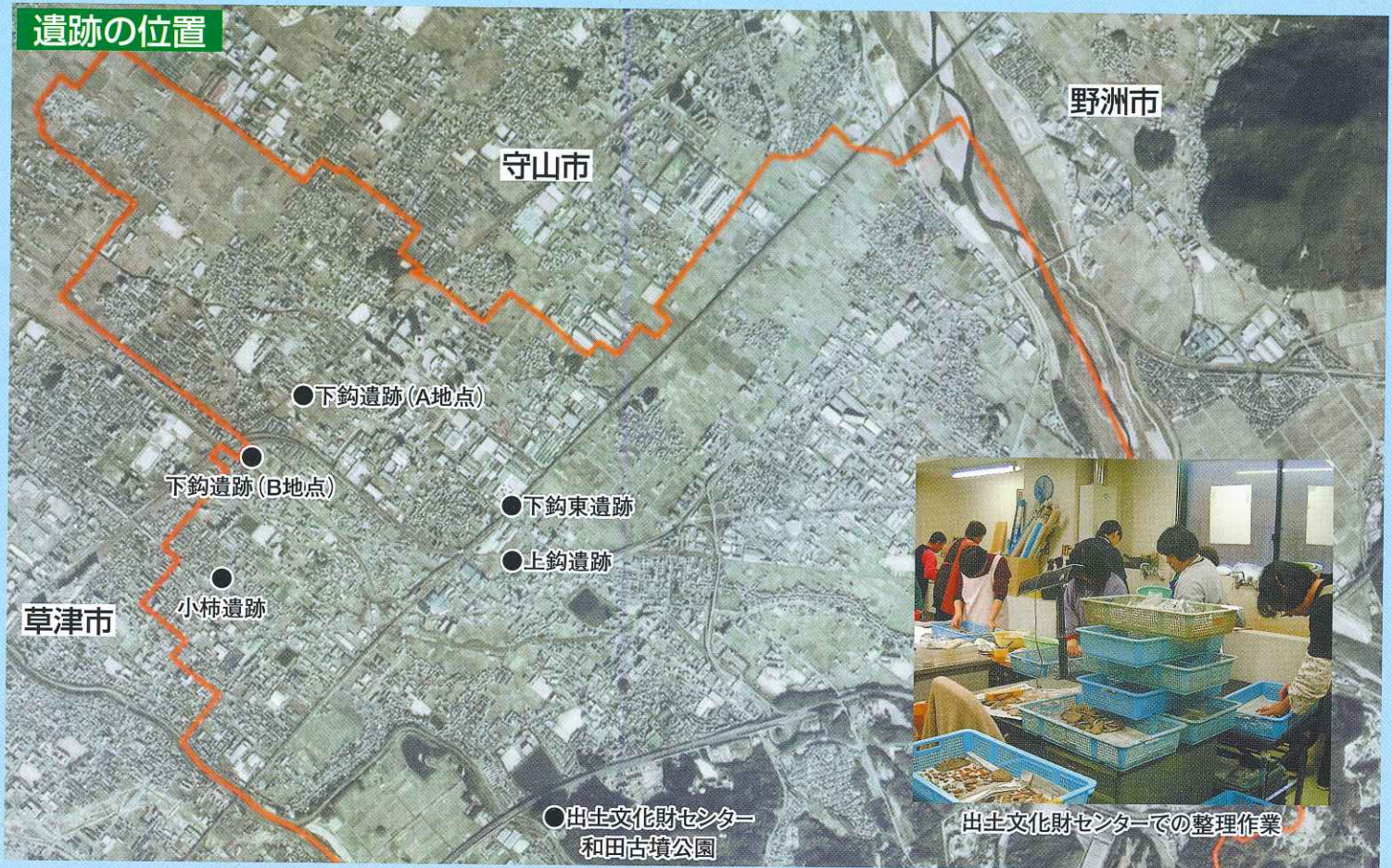
栗東市話題の発掘調査



◀ 前漢鏡(下鉤遺跡)

弥生時代中期(紀元前1世紀)
に前漢で製造された銅鏡。
県内で初めて出土し注目され
ました。

遺跡の位置



弥生時代後期の多角形住居が見つかる ～下鉤東遺跡～

下鉤東・蜂屋遺跡では、新幹線新駅建設に伴う区画整理事業に先立ち発掘調査を行っています。これまでに弥生時代の竪穴住居、平安時代から鎌倉時代の掘立柱建物、農業用水路などがみつかっています。今年度調査では、弥生時代後期（2世紀頃）の竪穴住居、飛鳥時代（7世紀）の掘立柱建物や竪穴住居、鎌倉時代の掘立柱建物などがみつかっています。弥生時代の竪穴住居は、前年度の調査でも一辺4m程の方形住居が2棟出土していますが、散在している状況から、短期間に小規模な村が営まれたことが想定されていました。

今回見つかった住居は五角形という珍しい平面形態で円形、方形に対し多角形住居などと呼ばれるものです。柱穴は5本で、中央には炉、南東辺の壁際中央に床下収納穴があります。最大幅は7.7mあり、他の住居よりも大規模であることから、集落の中心的な建物であったと思われます。今後周囲の調査が進められ集落の様子が明らかになることでしょう。

（佐伯）



小型壺が出土した様子



多角形住居が見つかる

弥生時代から 古墳時代につづく集落

A地点は、下鈎遺跡の北西端に位置し、J R琵琶湖線沿いに位置します。

確認された主な遺構は、弥生時代後期後半から古墳時代前期の遺物を含む旧河川、堰^{せき}、溝、井戸などが存在します。

旧河川は、幅7～9m、深さ1.2～1.6mを測り、調査区の南東から北西にむけて延びています。北側で流路が二つに分かれ、その交差する部分には、杭や矢板を打ち込んで堰が設けられています。堰周辺からは、多量の土器が出土しました。中には、畿内地域や日本海沿岸地域など各地域との交流を示す土器が含まれ、遺跡の重要性に注目されます。

(近藤)

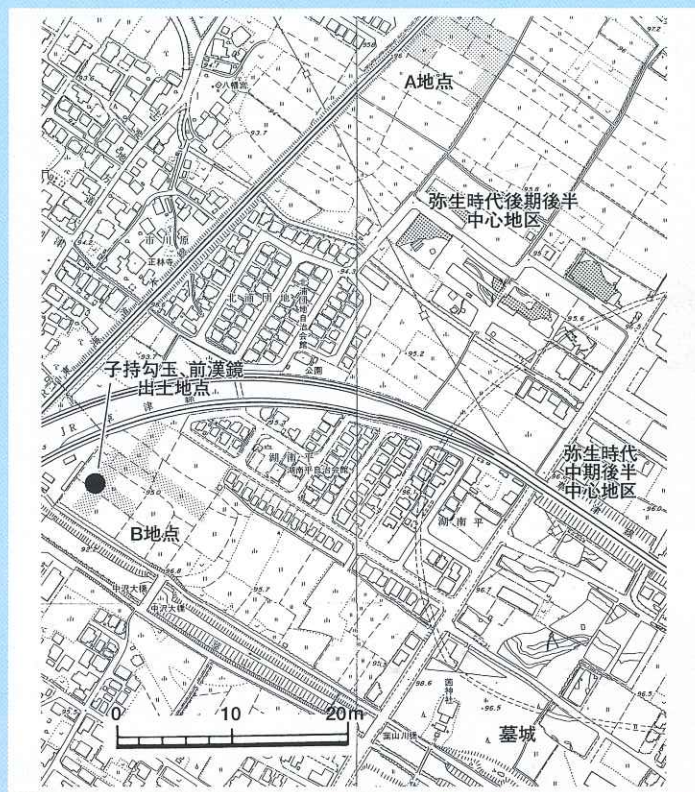


堰 (A地点)



子持勾玉が見つかったようす (B地点)

下鈎遺跡の古墳時代



下鈎遺跡西半部

子持勾玉が出土

B地点は下鈎遺跡の南西端、草津市に接する地点での調査(表紙写真)です。前漢鏡など弥生時代中期以降の遺物、古墳時代前期から平安時代の土坑、溝、井戸、掘立柱建物などの遺構が出土しました。古墳時代中期(5世紀後半)の祭祀土坑は、2.5mの距離で2基確認されました。長さ3m、幅1.7m、深さ3.3mを測る東側の土坑からは、子持勾玉をはじめ管玉や白玉、有孔円板などの滑石製品と、須恵器・土師器が多数出土しました。また西側の土坑からも滑石製品と土器が出土しました。子持勾玉は、県内13例目。栗東市では初。完形の優品で、長さは9.3cm・重量140g、沢山の小勾玉を持つ形態から子孫繁栄や豊作などを祈る祭具だったと考えられています。子持勾玉の出土例は少なく、有力な地方豪族による祭祀遺構と判断されます。

(佐伯)

平安時代の村 ～小柿遺跡～



掘立柱建物あと

小柿遺跡は、縄文時代後期から近世にかけての複合遺跡です。遺跡の北部にあたる市立治田西小学校周辺では、弥生時代後期の集落や古墳が確認されています。また南部では、今のところ調査件数が少ないものの、縄文時代や平安時代の集落の存在が明らかになっています。今回の調査区でも、平安時代の掘立柱建物、耕作痕、溝などが確認されました。溝からは、甕、皿、羽釜などの土器類のほか、馬の骨や縄文時代のやじりが出土しています。（近藤）

「寺内」集落の形成 ～上鉤遺跡～

栗東市上鉤にある「寺内」集落は、室町時代の長享元年（1487）に足利義尚が六角氏討伐のために陣所を置いた地とされ、江戸時代には伝承に基く「鉤の陣絵図」が作られました。

絵図によれば、集落北側の永正寺を「本丸」に、その東側を「二の丸」としています。しかし、このような景観が本当に存在したのか。存在したとすれば、いつ作られたのか謎とされてきました。

今回の発掘調査では、集落内部で行われ、現在の地面の下から、集落をつくる際に土盛りされた「整地層」や、L字状の濠跡が見つかりました。整地層の所属年代は不明瞭ですが、濠跡からは、16世紀末～18世紀代を中心とする播鉢や、瀬戸美濃系陶磁器が出土しました。

図1は、「鉤の陣絵図」を参考に、現存する土塁や溝・地割りを地図に示したものです。これによれば、発掘されたL字状の大溝は、「二の丸」を区画していた濠に当てはまります。

このことから、絵図に描かれた地割りは室町時代ではなく、天正11年（1583）以降に開始された安土・桃山時代の「寺内」集落造成時の姿を示したものであることが判明しました。（藤岡）



2005年度調査区全景（人物の右側が大溝）

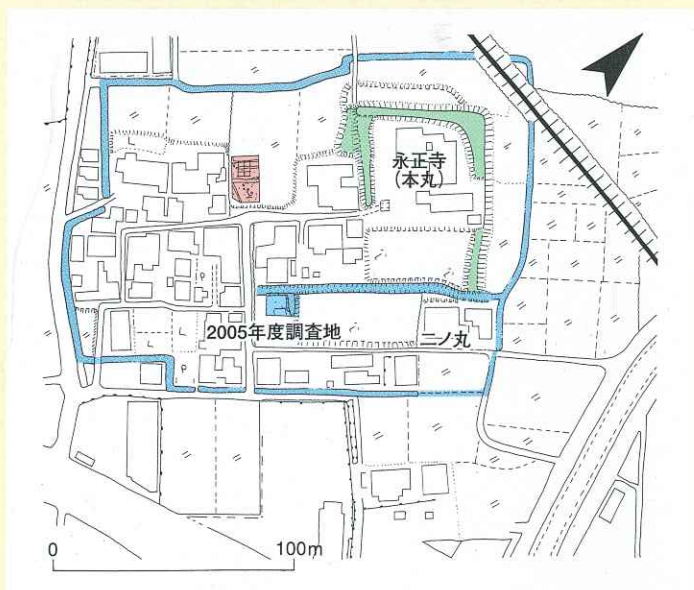


図1 上鉤寺内現況図（緑色の箇所は土塁を示す）